

1. 「南国そだち」の栽培暦

cm 本/m ²	目録面(稚苗)											
	80 60 40 20											
草丈・稈長												
茎(穂)数												
作業時期	←ケイカル(冬期施用)	↑播種(3/10)	↑代かき・基肥	↑田植え(4/5)	↑分けつ始	↑最高分けつ	↑幼穂形成期(5/26 ~ 6/1)	↑穂ばらみ期(6/20 ~ 6/26)	↑出穂期	↑刈取り(7/22 ~ 7/28)	↑成熟期	
水管理	灌水(寒い場合は深水)			間断灌水 中干				灌水(低温が予想される場合は深水)				
作業のすすめ方	<ul style="list-style-type: none"> ○畦カルの施用 10a当たり200kgを冬期間に施用する。 ○床土の準備 PH5.0~5.5 10a当たり60~70t ○種籾の準備 10a当たり3~4kg ○種籾の消毒 常法による。 ○浸種 7日程度 積算温度で100℃ 	<ul style="list-style-type: none"> ○播種量 均一にややうす播にする。箱当たり乾籾100~150gとする。 ○育苗管理 温度管理に十分留意し、伸ばしすぎないようにする。日中20~25℃ 夜間は15℃程度とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基肥 N.....7kg/10a P₂O₅.....8kg/10a K₂O.....8kg/10a (乾田 沖積土壌) ○田植 栽植密度30cm×18~22cm (㎡当たり15.2~18.5株前後) 1株植付苗数3~5本 ○施肥例① 南国そだち化成 30~40kg ○施肥例② 元肥(添加資525) 35~40kg ○追肥 穂肥(NK-66号) 6~12kg ※例示施肥は基準施肥の20%程度を減肥する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中干し 田面が硬まる程度に軽く実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出穂後の水管理 出穂10日後以降は間断かんがいを行う。 ○落水 出穂後20日以降とし 早期落水はさける。 ○刈取り 早刈りをしない。出穂後32日前後とする。 							
栽培のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 1. 健苗育成 やや薄播きとし、温度管理には十分留意し、健苗育成につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2. 高品質の穂づくり (1)適正な施肥量とする 南国そだちは種端な多肥での増収は期待できないので、いもち病、紋枯れ病を助長させるような過度の施肥は行わない。(2)穂肥(化成肥料使用の元肥+穂肥体系の場合) 10a当たり窒素成分で1~2kg施す。同時に加里も同量施用する。時期は出穂25日前(主稈の幼穂長2mm程度) 	<ul style="list-style-type: none"> (3)稈実をよくする。 短穂(1穂籾数が少)のため、穂肥は遅れないよう適期に施す。 根の活力を高めるため、間断かんがいをし、早期落水はしない。 品質を高めるため早刈りはしない。 	<ul style="list-style-type: none"> (4)収量目標をきめる。 収量目標を540kg(60株/坪)にした場合の 収量構成要素は次のとおりである。 収量 = 穂数 × 1穂籾数 × 登熟歩合 × 千粒重 (本/m²) (粒) (%) (g) 540kg = 510 × 55 × 0.85 × 22.5 注) 目標収量の収量構成要素は、目標であり地域の気象・土壌条件等により異なる。 								